

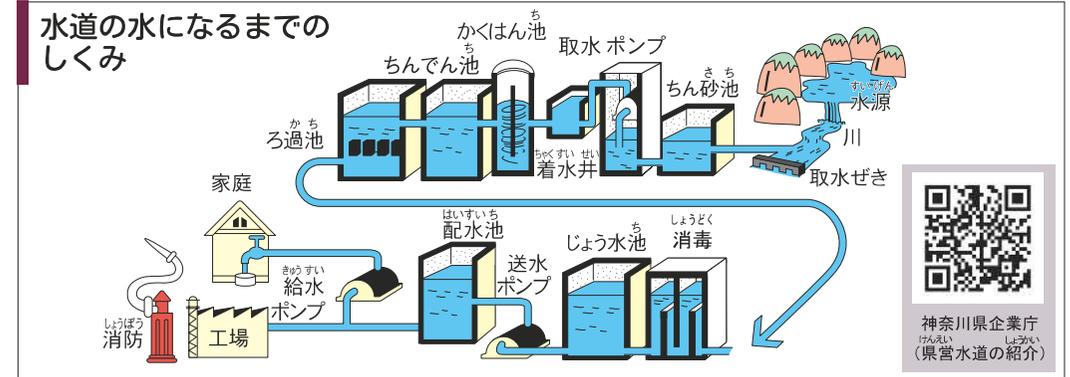
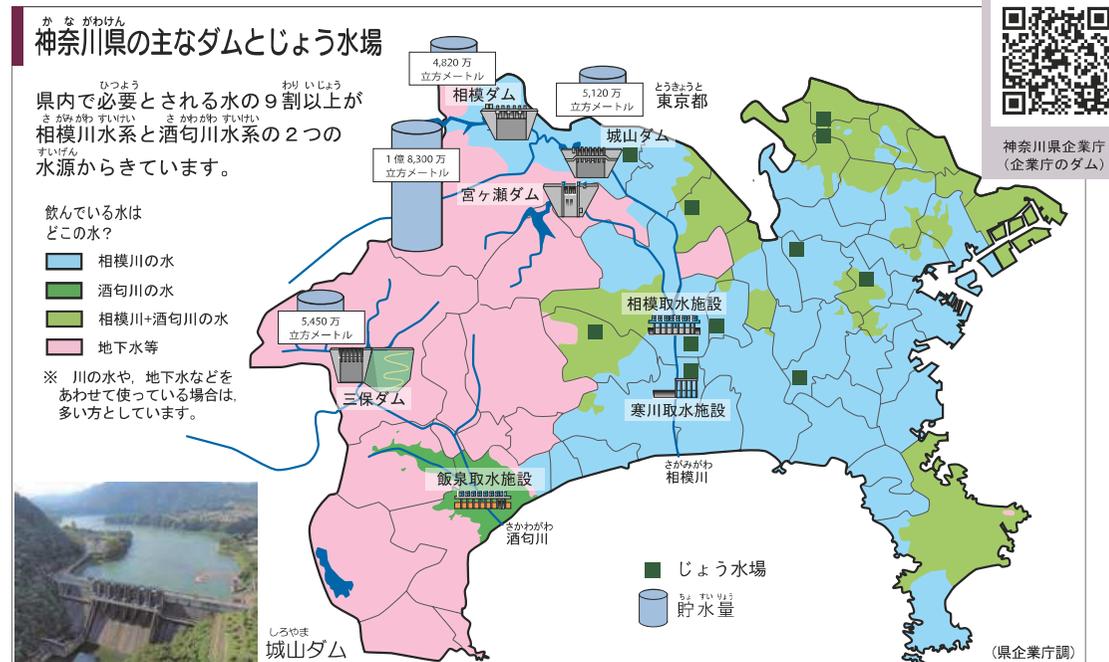
# 4章 これからの暮らしを考えよう

## 1 環境を守る

### (1) 水を大切に使う

わたしたちの家庭のなかだけでなく、工業や農業にも使われている水のほとんどは、川から取っています。川の取水ぜきなどから取られた水は、じょう水場できれいにされ、安心して使える水道の水になります。

川の上流では、水をかくほするため、ダムが建設されています。ダムの建設は大変大きな工事なので、国や県をはじめ、横浜市、川崎市、横須賀市が共同で仕事を進めてきました。また、ダムの建設場所に住んでいた人たちは、ほかの地域にうつり住まなくてはなりません。多くの人の協力で完成した4つのダムは「かながわの水がめ」として大きな役割を果たしています。



### (2) 使った水はどこへ

わたしたちが食器をあらった水やトイレで流した水は、下水処理場できれいにして自然に返しています。下水道は、きれいな川、湖、海を守ります。

また、雨の時に、道路などがしん水しないように、雨を街から排除する役割もあります。

水環境やわたしたちの生活を守るため、県と市町村では協力して下水道を整備しています。



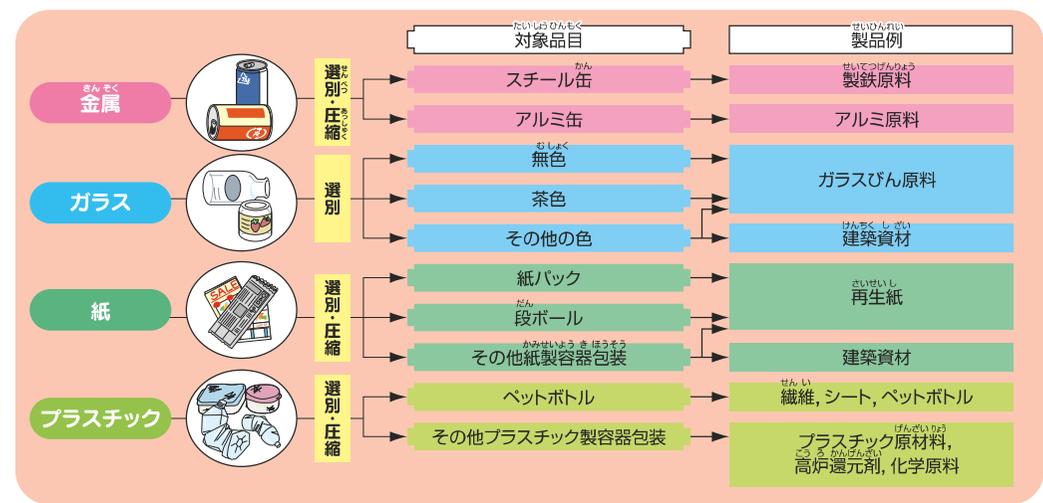
学校や家でできることがありそうだね。



### (3) ごみはどこへ

家庭や会社、工場などから、毎日たくさんのごみが出ています。集められたごみのうち、もえるごみはごみ処理場でもやされますが、かん、ペットボトル、紙パック、びん、古新聞、古ざっしなどは、分けて集められ、ふたたび、しげんとしてリサイクルされています。

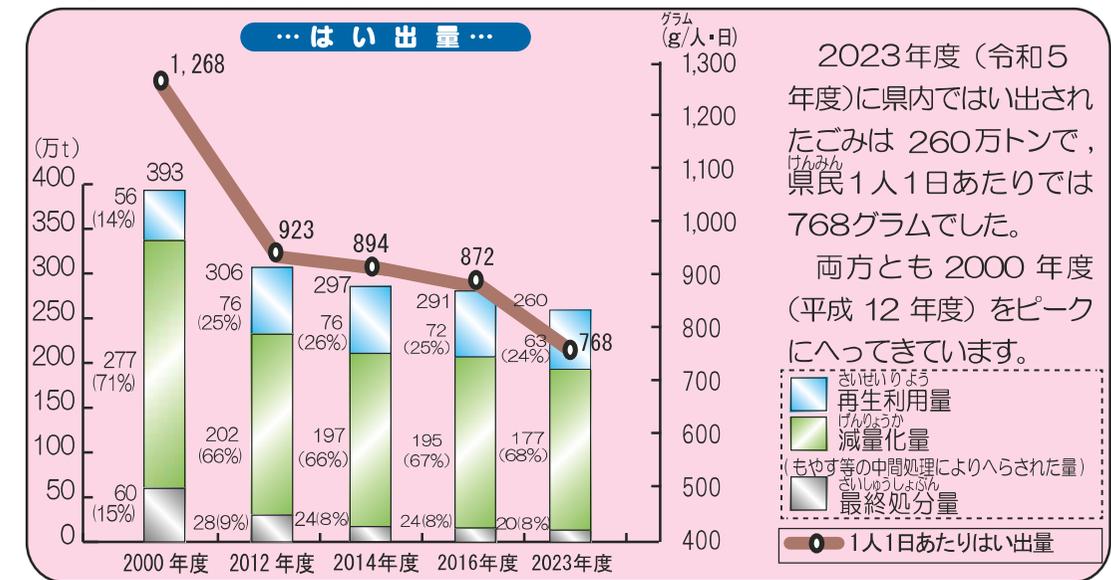
容器包装リサイクル法によるしげんのリサイクル



ごみになってしまう物を、再利用したり、ふたたび原料として活用したりすることによって、ごみの量をへらし、かぎりあるしげんを節約することができます。

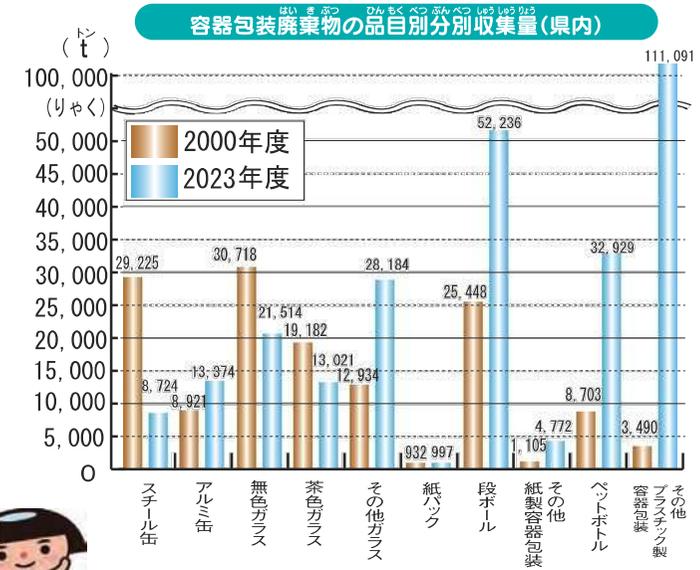
ごみをへらしてきれいなまちにするために、ごみの分別のルールなどを守り、物を大切に使い、しげん回収を手伝いましょう。また、環境に良い商品を選ぶようにしましょう。

県内の一般廃棄物（ごみ）の状況



### 県内の状況

2000年度（平成12年度）から2023年度（令和5年度）までの分別収集量の伸び率は、その他プラスチック製容器包装が最大となっています。これは、生産量の増加や市町村による分別収集の取組が進んだことによるものです。



自分の住んでいる地域のごみの出し方を調べてみよう！

### 地球温暖化をふせごう

わたしたちは、家庭や学校などで、毎日たくさんのエネルギーを使っています。たとえば、教室で電気をつけるとき、家でテレビを見るとき、車が走るとき、ごみをもやしたりするときにもエネルギーは必要です。

しかし、わたしたち人間がエネルギーを使いすぎることによって、石油などがもやされ、たくさんの二酸化炭素が発生し、地球があたたかくなりすぎる、地球温暖化が進んでいます。このまま地球が温暖化していくと、異常気象がふえたり、動物や植物がぜつめつしたり、農作物がとれなくなったりすると言われています。

地球はわたしたち人間だけのものではありません。地球温暖化をふせぎ、みんなが安心してらせるよう、しげんを大切に使い、ごみをよくいに出さない生活を心がけましょう。

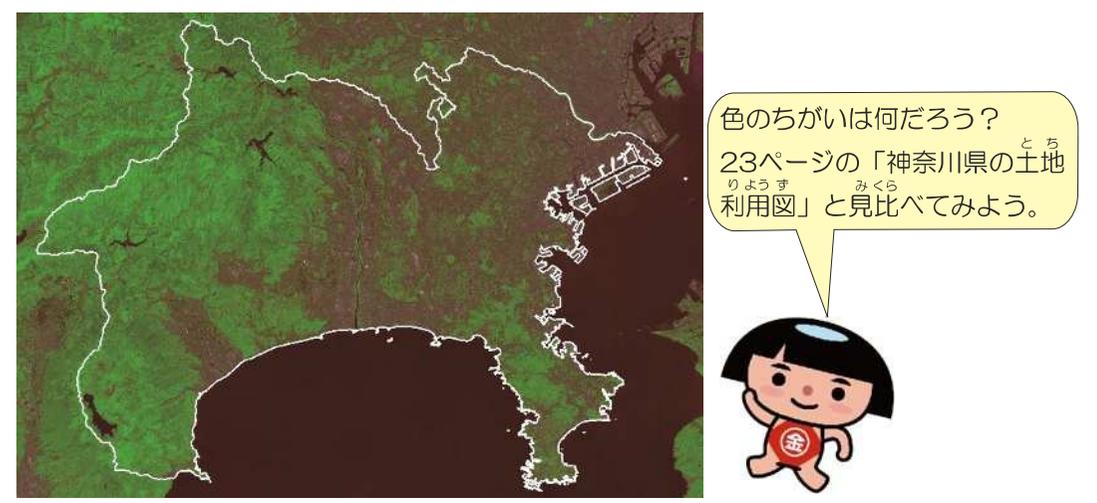
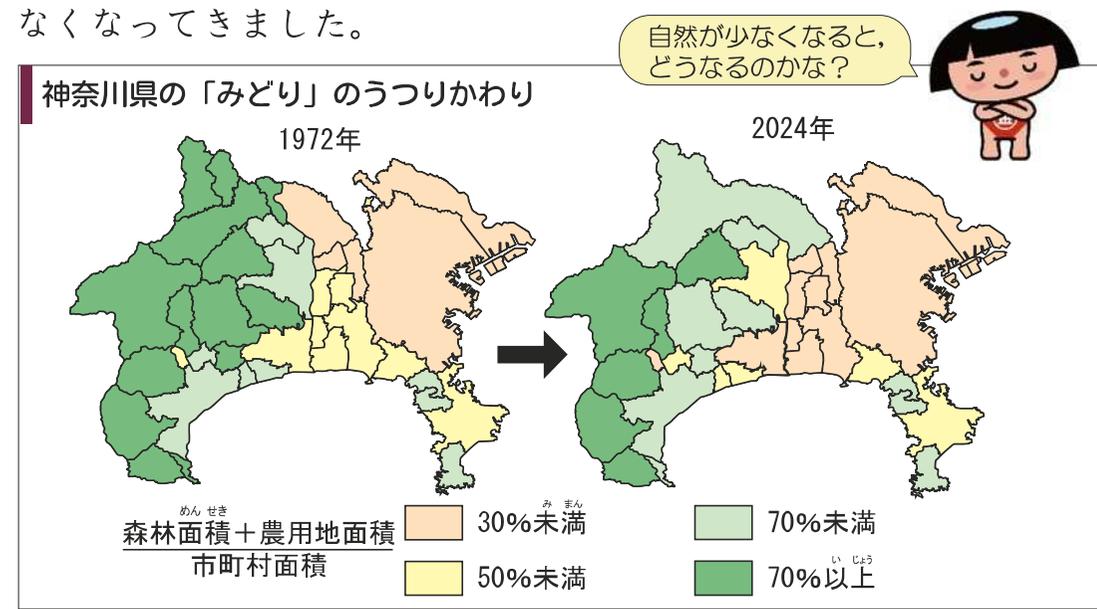




(5) 自然を大切にしよう

神奈川県には、素晴らしい風景や温泉で知られる箱根、ブナ林が残っており、カモシカなどがすんでいる丹沢など、ゆたかな自然があります。自然は、生き物のすみかであり、人々の心のよりどころであり、いこいの場としてもなくてはならないものです。

しかし人口がふえ、開発が進むにつれて、自然はだんだん少なくなってきました。



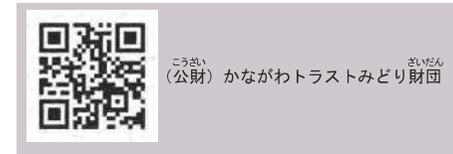
宇宙から見た神奈川県(県環境科学センター作成 衛星ランドサット9号からみた神奈川県(アメリカ地質調査所提供) /高度705km 2022年5月撮影)

一度失われた自然は回復が大変むずかしく、しかもむやみに開発をしてしまうと、がけくずれや川のはんらんなどの災害の原因にもなります。

ゆたかな自然は、わたしたちが祖先から受けついだ財産で、これを大事に守り続けることは、わたしたちの大切なつとめです。

県では、道路や工場など広い面積を開発したりする場合には環境にどのようなえいきょうをあたえるかあらかじめ調べたり、さまざまな動物や植物がいるゆたかな自然環境を守り育てる活動を市町村などといっしょに行うなど、大切な自然環境を守るようにつとめています。

また、森林の間ばつなど、水源環境を守るためのさまざまな活動を、県民のみなさんからいただいた特別な税金(「水源環境保全税」とよんでいます。)を使って、市町村や相模川の上流にあたる山梨県などと協力して行っています。

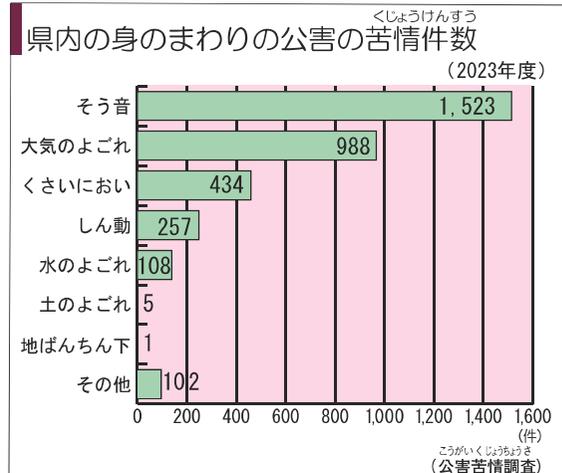
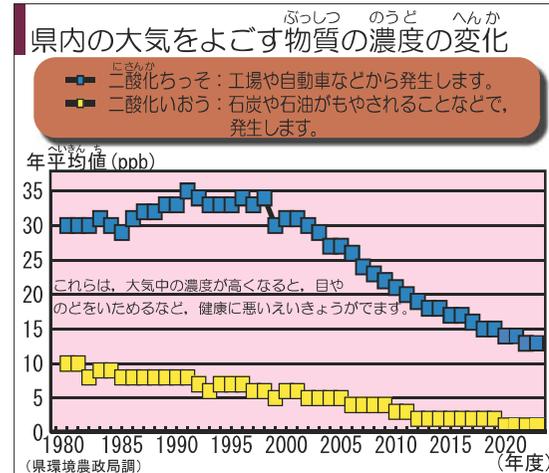


【(6) 身のまわりの公害をふせごう】

昔は、大気（空気）や水のごれは、自然のしくみによってきれいになっていました。ところが、住宅がふえ、工場などが多くなると、よごれはどんどんひどくなり、自然の力だけではきれいにすることができなくなってしまいました。

例えば、自動車のはい気ガスなどにより大気がよごれると、わたしたちの健康に悪いえいきょうが出たり、農作物が育ちにくくなったりします。また、下水処理されていない水により川や海などがよごれると、魚がすめなくなったり、飲み水を作ることが大変になったりします。このように、人の活動により、大気や水のごれなどによるひ害が起きることを「公害」といいます。

県では、自動車や工場などから出るはい気ガスや、水のごれなどをきびしくきせいしています。また、県内の測定点で、大気や水がよごれていないか、かんししています。



公害の苦情件数で多いのは、そう音や大気のごれによるひ害です。公害は、多くの人々の生活にえいきょうがあるため、さまざまな対策が必要です。

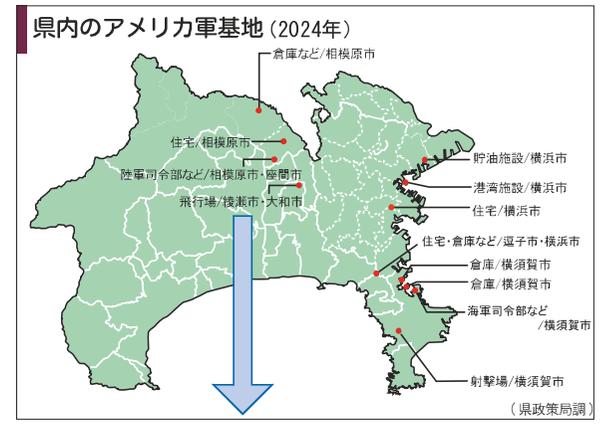
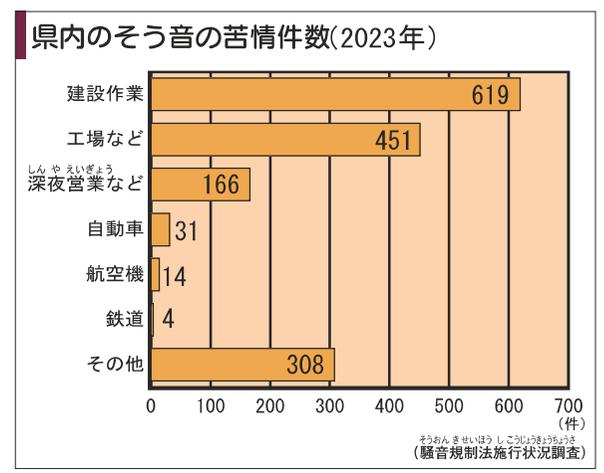
そう音も公害の一つです。そう音は、工場や建設作業、自動車などから出るものです。夜おそくまで開いている店のカラオケやイベント会場での音や人の声などもそう音となることがあります。

さらに、神奈川県では、アメリカ軍基地の航空機のそう音が問題となっています。

そこで県では、夜間の飛行を禁止するように求めるなどして航空機のそう音のひ害を少なくし、より良い生活環境になるよう基地の周りの市といっしょに取り組んでいます。

大気や水のごれなどは、地域や国をこえて地球全体にも広がっています。

わたしたちにとって、地球はかけがえのない星です。わたしたち一人ひとりも、自分たちのくらしを見直し、毎日の生活の中で、環境をよごさないように気をつけましょう。



神奈川県環境科学センター

## 2 くらしを守る

### (1) 台風や大雨による災害をふせぐ

台風や大雨のとき、がけくずれや川のはらんなどの災害が起こることが少なくありません。最近では、短い時間にせまい場所で大雨がふることで、急に川の水がふえることなどが問題になっています。



そのため、県では、大雨によるひ害をへらすために、川だけでなく下水道や森林、まちづくりなど、みんなが協力しながら対策を行う「流域治水」という考え方を取り入れています。

こうした中で、県では、市町村と協力して、川を改修したり、くずれやすいがけを工事したり、きけんな場所を前もってみんなに知らせておくなど、災害をふせぐ努力をしています。



整備される前の串川 (相模原市)

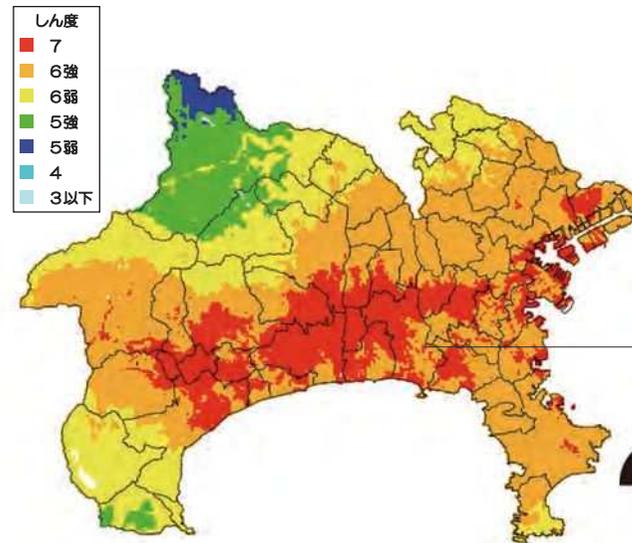


整備されたあとの串川 (相模原市)

### (2) 地しんのひ害をふせぐ

大地しんは、大変大きなひ害をもたらします。1995年(平成7年)1月17日に発生した阪神・淡路大しんさいや、2011年(平成23年)3月11日の東日本大しんさいでは、多くのとうとい命が失われました。神奈川県では、大正型関東地しんや、東海地しん、南海トラフ地しん、三浦半島断層群の地しん、都心南部直下地しん、神奈川県西部地しんなど、さまざまな地しんによるひ害が心配されています。

### 大正型関東地しんの想定しん度分布図



大正関東地しんでたおれた建物の様子(藤沢市)



大きなゆれがあった時は、ブロックべいや電柱など、たおれてくるかもしれない物からはなれよう。

大きな地しんが発生すると、ゆれによって住宅や工場など建物がこわれたり、生活に必要な電気やガス、水道などがとまったりします。また、鉄道やバスなども動かなくなるなど、さまざまなひ害をもたらします。

また、海で大きな地しんが起きると、ゆれによるひ害だけでなく、つ波によるひ害も起きることがあります。さらに、海での地しんは、たとえゆれが小さくても、大きなつ波がくることがあるので、注意しなくてははいけません。

マグニチュードとしん度のちがい  
マグニチュードは地しんそのものの大きさをあらわしています。しん度は各地域で感じるゆれの大きさです。しん源に近いほど、しん度は大きくなります。

### しん度のめやす

しん度	通常発生する現象の例
0	人はゆれを感じない。
1	屋内ですずかにしている人の中には、ゆれを感じる人がいる。
2	屋内ですずかにしている人の大半が、ゆれを感じる。電灯など、つり下げた物がわずかにゆれる。
3	屋内にいる人のほとんどが、ゆれを感じる。たなの食器類が音をたてることがある。
4	ほとんどの人がおどろき、眠っている人のほとんどが目を覚ます。電灯など、つり下げた物が大きくゆれ、たなの食器類が音をたてる。
5弱	大半の人が、きょうふを感じ、物につかまりたいと感じる。たなにある食器類や本が落ちることがある。固定していない家具が動くことがあり、不安定なものはたおれることもある。
5強	物につかまらなさと歩くことがむずかしい。たなにある食器類や本で落ちるものが増える。弱いブロックべいがくずれたり、建物の一部にひび割れがでたりすることがある。
6弱	立っていることがむずかしい。固定していない家具の大半が動き、たおれるものもある。壁のタイルや窓ガラスがこわれて落ちることがある。弱い木造建物は、かわらが落ちたり、建物ががたむいたり、たおれるものもある。がけ崩れや地すべりがおきることがある。
6強	はわないと動くことができません、飛ばされることもある。固定していない家具のほとんどが動いたり、たおれたりする。弱い木造建物は、かたむくものや、たおれるものも増える。大きな地割れやがけ崩れが生じたり、山の形がこわれてたりすることがある。
7	固定していない家具が飛ぶことがある。壁のタイルや窓ガラスがこわれて落ちることが増える。弱い木造建物は、たおれるものがさらに増える。がんじょうな木造建物や鉄筋コンクリートの建物でも、まれにかたむいたりするものがある。

（気象庁震度階級関連解説表（2009年）を簡略化）

県では、専門家などと協力して、地しんのゆれの大きさや、つ波がどこまで街中などに入りこむか予想した地図を作ったり、「温泉地学研究所」で地しんや火山の研究を進め、対策に役立てたりするほか、「総合防災センター」などのしせつを整えるなど、地しんなどの災害によるひ害を少しでもへらすことができるよう、さまざまな取組を行っています。

また、市町村や病院、自衛隊なども協力して大きな訓練を行うなど、災害が起きてもたくさんの人を救うことができる努力をしています。

市町村などでは、ひなん場所などを書いた地図を作ったり、住民や観光客などがすぐにひなん場所へにげられるように道路の表示を工夫したりするなど、地しんが起きた時のためにそなえています。みなさんも、防災訓練に参加するなどして、地しんやつ波が起きたときに、安全な行動ができるようにしましょう。

また、ほかの地域で大きな災害が起きた時に、どんな形で協力ができるかも考えてみましょう。

他の都道府県で災害が起きたら県や市町村は何をするのかな？101ページも読んでみよう！



海からの高さをあらわす表示

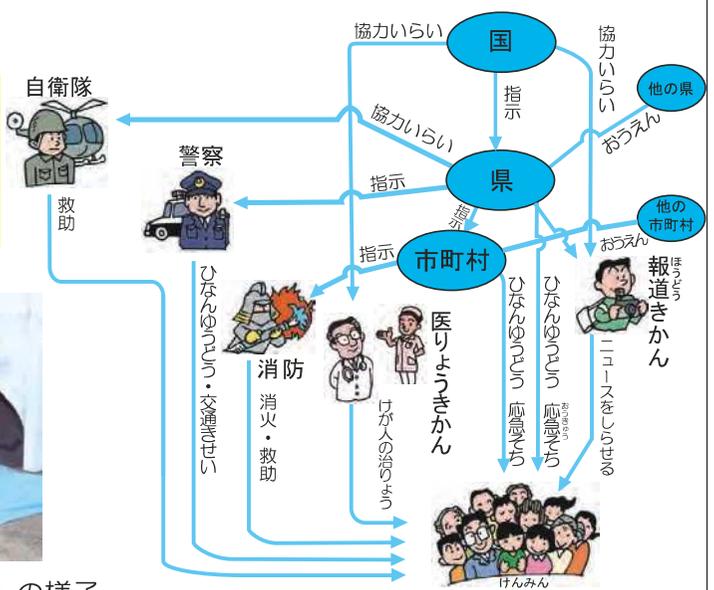


海から近い駅にある、ひなんのための表示



### 地しん災害対策のしくみ

海でのひ害が大きい場合は、海上保安庁が協力したり、大きい地しんでは在日米軍もこれに加わったりします。また、ボランティアや、他の国からの救助隊などが活やくすることもあります。



「ビッグレスキューかながわ」の様子  
県と市町村が主催し、警察・消防・自衛隊などが参加する大きな災害を想定した総合防災訓練。

### (3) 火災をふせぐ

火事は家が焼けてしまうだけでなく、人の命までうばうことがあります。県内では、2023年（令和5年）に2,053件の火事が起きて、55人がなくなっています。

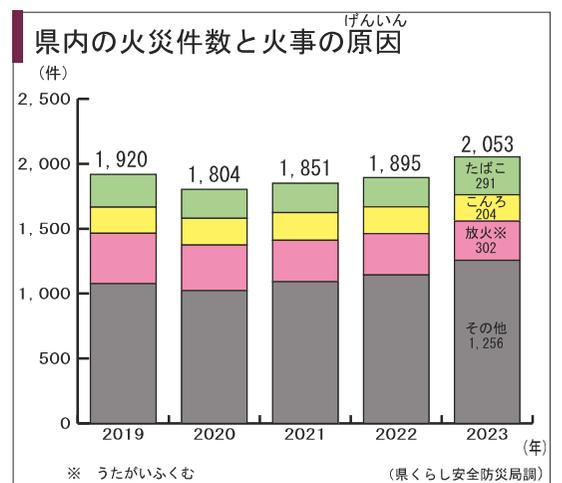
火事が起きたとき、ひ害を大きくしないために、市町村では、消防に力をいれています。また、山林がもえるような大きな火災や、工場や石油コンビナートで起きる特しゅな火災のときには、周りの市町村と協力しあって消火の活動をするしくみになっています。



火災現場



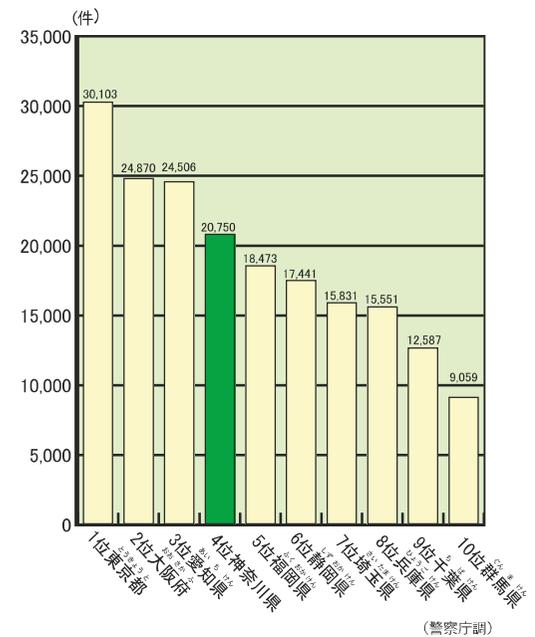
大型放水砲とうさいホース延長車  
(横浜市消防局提供)



どのくらい交通事故が起きているのかな？事故の原因は何だろう？

(4) 交通事故をふせぐ

全国の交通事故発生件数ワースト10 (2024年)



神奈川県内では2024年(令和6年)に20,750件の交通事故が起き、109人がなくなりました。

神奈川県は全国の中で4番目に交通事故の多い県となっています。特に、高れい者が事故にまきこまれることが多くなっています。また、毎年たくさん子どもたちが、歩いているときや、自転車に乗っているときに事故にあっています。

交通ルールを守ろう



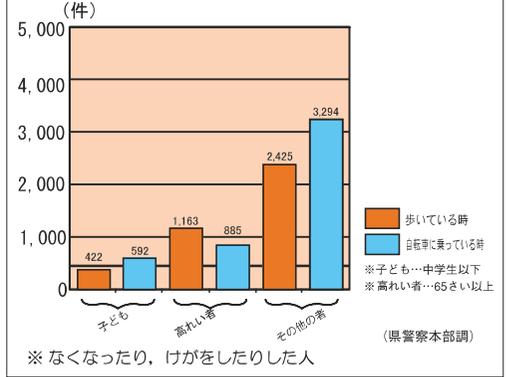
交通ルールを覚えよう(チリリン・スクール)



シミュレーターで学ぼう(自転車シミュレーター)

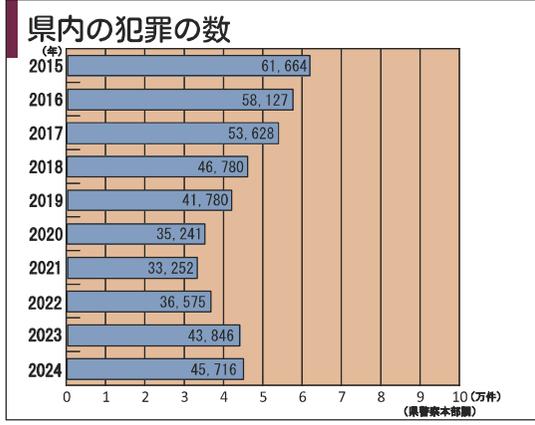
交通事故にあわないようにするためには、みんなで交通ルールを守ることが大切です。

県内で歩行中・自転車乗中に交通事故にあった人(※)の数(2024年)



神奈川県警察本部

(5) 犯罪をふせぐ



公園に開設した移動式の交番「アクティブ交番」

警察は、みんなの命や財産を守るために、犯罪をふせいだり、犯人のたいは、交通の取りしまりなどを行っています。

神奈川県には、警察署が54か所、交番・ちゆう在所などが565か所〔2025年(令和7年)4月1日げんざい〕あり、約1万6千人の警察官が働いています〔2025年(令和7年)4月〕。

最近は、高れい者から電話でお金をだまし取る犯罪や、インターネットを使った犯罪、子どもをねらった犯罪などが発生しています。そのため、警察では、そうさの科学化とスピード化に力を入れています。また、みんなが犯罪のひ害にあわないように防犯ボランティアさんといっしょにパトロールを行うなど、犯罪のないまちづくりに取り組んでいます。

海の安全を守る「海上保安庁」

海上保安庁は、海で事故が起きたときに船や人を助けたり、パトロールなどで犯罪を取りしまったりしています。

神奈川県には横浜・横須賀に海上保安部などがあり、相模湾や東京湾から、はるか遠くの小笠原諸島まで活動しています。

日本の海は大変広いです。海上保安庁は、警察や消防、自衛隊などと協力しながら、海の安全を守っています。

海できけんなことにあったときや見たときは、118番に連絡しましょう。



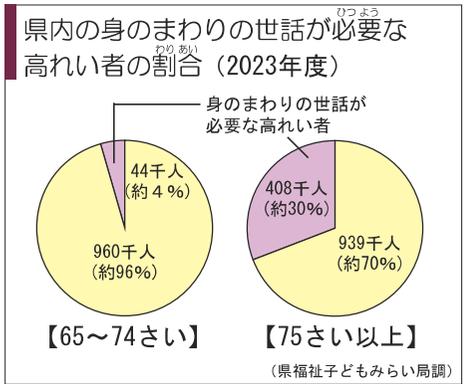
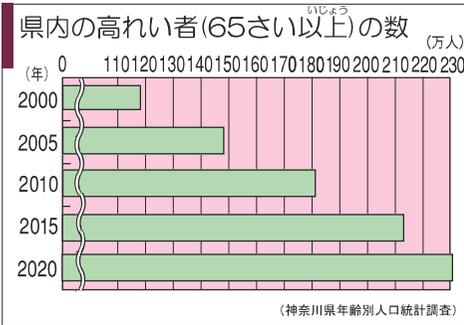
ひっくり返った船をそうさくする様子



いはん違反した船を取りしまる様子

### 3 とともに生きる

#### (1) 高れい者とともに



日本人の平均じゆみようは、男性は81.09さい、女性が87.13さいで、世界のトップクラスです[2024年(令和6年)]。

高れい者が元気で生きがいをもってくらすよう、県や市町村では、早く病気を見つけるための健康しんだんや健康で楽しくすごすためのしゆみ、スポーツ・レクリエーション活動や集まりへの参加のよびかけなどを行っています。

また、体が弱くなり、身のまわりの世話が必要となった高れい者のために、食事やホームヘルパーのサービスなどが受けられるしくみをつくったり、しせつを整えたりしています。

#### 高れい者の気持ちを考えよう

高れい者ぎじ体験では、ゴーグルや手ぶくろをつけたり、うでや足におもりやサポーターをつけたりします。これらをつけると、物はみえづらく、つかみにくくなり、うでや足は重く、曲がりにくくなります。このような体験をすると、高れい者の気持ちがよく分かります。みなさんも高れい者の立場にたって考えてみましょう。



平塚市社会福祉協議会による小学校での高れい者ぎじ体験でおはして豆をうつす様子

#### (2) 子どもたちのために

日本をふくむ世界の国々は、子どもたちにも大人と同じように権利をみとめ、「子どもにとって一番良いこと」は何かを考え、行っていこうという約束をしました。これを「児童の権利に関する条約」(子どもの権利条約)といいます。

子どもたちは、学校へ行ったり、思っていることを言ったりする権利をもっています。また、だれからもいじめられない権利をもっています。

このような子どもたちの権利を守り、こまったときには相談できるように、児童相談所や家庭児童相談室があったり、人権ようご委員や児童委員などがいます。

また、県ではすべての子どもが同じ場で共に学び、共に育つインクルーシブ教育を進めています。



神奈川県教育委員会 (インクルーシブ教育)

ともに かがやく よろこび 人と違っていてもいい!

自分が考えていることや思っていること、信じていることなどが、人と違っていると、なんだか不安になるときがある。でも、違っていてもいい。正しいと思うことは、勇気をだしてやってみよう。もちろん、ほかの人の考えたことや思っていること、信じていることは大事にするよ。

差別は ダメ

なにがなんでも差別はダメ! 髪の毛、目、肌の色、男女、言葉、生まれや育ち、体が不自由なことなどで、変に思われたり、仲間はずれにされたり、いじめられたりするなんて、あってはならない。みんな、大事にされなくては。

(1996年 神奈川県教育庁教育部義務教育課作成「児童の権利に関する条約」啓発用資料から抜粋)



わたしたちの幸せを守るために、大人はたぐさんの約束をしています。

### (3) 障がいのある人たちとともに

県内には、さまざまなしえんを必要としている人が数多くいます。たとえば、障がいがある人などにとっては、歩道にあるちょっとした段差などが、ふだんの暮らしをしていく上で、さまざまなたげになることもあります。

県や市町村では、すべての人がくらしやすくなるように、住宅や道路、駅、公園などの整備を進めています。

そして、障がいのある人が、地域で働いたり、スポーツをしたりと、みんながいっしょに生活していくことが大切です。



車いす用  
スロープと  
点字ブロック



あいかわ公園  
(だれもが遊べる  
遊具)



障がいのある人が  
働いている様子  
(軽作業)



障がい者スポーツ  
(車いすバスケット  
ボール)

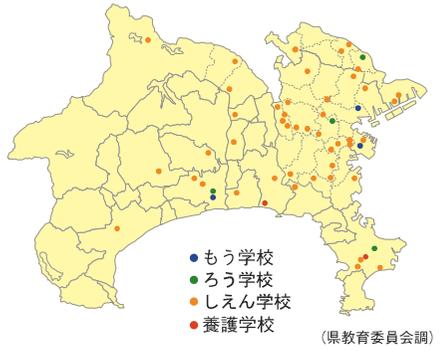
身体などに障がいのある児童や生徒が、一人ひとりに応じた

教育を受けることができるよう、小中学校には特別しえん学級があり、特別しえん学校（もう学校，ろう学校，しえん学校，養護学校）もあります。

県内の特別しえん学級の数(2024年)			
小学校	819校	3,712学級	20,606人
中学校	392校	1,400学級	6,922人

(県教育委員会調)

特別しえん学校  
(県内のもう・ろう・しえん・養護学校)  
(2024年)



### 補助犬とともに

盲導犬は、目の見えない、見えにくい人といっしょにくらし、外に出かけるときに、安全に歩くためのお手伝いをします。

介助犬は、落としたものを拾ったり、指示したものを持ってきたり、手や足を動かすのにくい人の日常生活をサポートします。

聴導犬は、耳の聞こえない、聞こえにくい人に玄関のチャイム音などの生活の中で聞こえる様々な音を知らせます。

こうした犬を補助犬といいます。

補助犬は、特別な訓練をしています。障がいのある人と歩いているところを見かけたら、あたたかく見守ってください。



### ともに生きる社会かながわ憲章

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
  - 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
  - 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
  - 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます
- 平成28年10月14日 神奈川県
- この憲章は県と県議会が共同して、制定したものです。



### 神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例 ～ともに生きる社会を目指して～

「当事者目線の障害福祉」とは、障がい者に関係するすべての人が本人の気持ちになって考え、本人の望みと願いを大事にし、そして、障がい者が自分の気持ちや考えで、必要なサポートを受けながら暮らせる社会をつくることです。

県は、令和5年4月1日、この条例をスタートしました。



【4】 みんなが幸せにくらすために

しょう 障がい者のスポーツ活動を手伝うボランティア活動



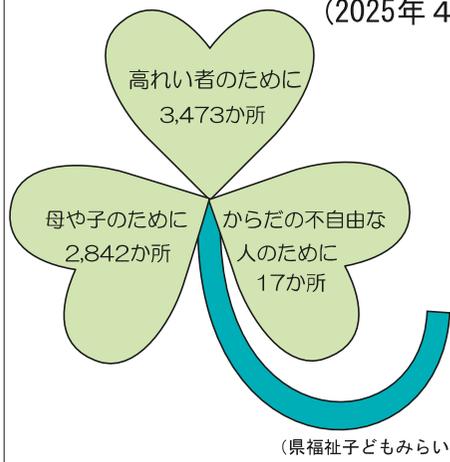
フライングディスク大会

ガイドランナーのばん走

すべての人は、人として幸せに生きる権利を平等にもっています。これを人権といいます。思ったことを言えるようにすることや、仲間はずれにしないこと、人の命を大切にすることなどは、わたしたちが守らなければいけない大事なことです。

年をとったり、病気をしたりして働けなくなったときも、安心して生活できるように、年金や生活保護、健康保険などの制度があります。

ふく 県内のいろいろな福祉しせつ (2025年4月)



また、助けが必要な人を手伝ったり、外国の人たちと仲良くしたりするなどのボランティア活動を行っている人がたくさんいます。「ともに生き、ささえ合う」社会をつくるために、みんなで考え、助け合うことが大切です。

ボランティア活動

○目の不自由な人に本を読む活動

神奈川県ライトセンターでは、いろいろな本やさっしを声に出して読んで録音する活動を行っています。目の不自由な人は、録音を聞いて、いろいろなじょうほうを知ります。



○団地住民の交流の場をつくる活動



横浜市にある日野団地のコミュニティールーム「いこいの家」では、さし子やしゅうなどの手芸、各種工作などの集まりを定期的に行い、入居されている方の交流の場をつくっています。

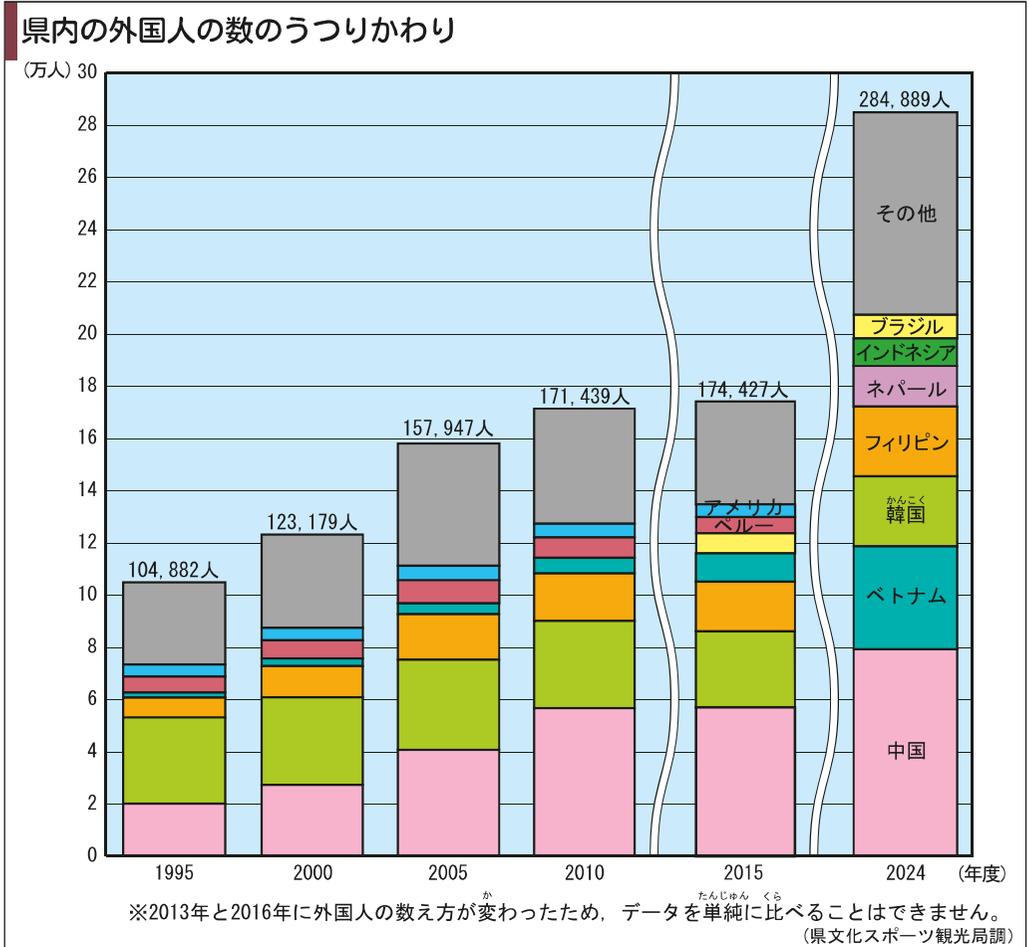
○韓国・朝鮮の友だちと文化交流する活動

川崎市ふれあい館では、韓国・朝鮮のたいこ（チャンゴ）を通して交流を図っています。たいこのえんそうなどを通して、韓国・朝鮮の文化をしょうかいし、地域での交流を行っています。



ふくしきょうかい (福) 神奈川県社会福祉協議会  
かながわボランティアセンター

かながわけん  
(5) 神奈川県に住んでいる外国の人とともに



神奈川県には、28万4,889人〔2025年(令和7年)1月〕の外国人が住んでいます。神奈川県民の約32人に1人が日本以外の国せき(どこの国の人であるかを表すもの)をもっています。

このような県民の中には、歴史的なつながりから、長い間日本に住んでいる中国や韓国の人々が多くいます。さらに、仕事や勉強のために、ベトナムやネパールなど、アジアの国々から来る人々もふえています。また、戦争からのがれて来た人々もいます。

これらの人々は、言葉や生活の仕方がことなる中でくらししています。県は、日本語を勉強する教室や、生活のことを相談する窓口をつくるなど、市町村や県民と力を合わせて、すべての国の人が生きてくらす社会をつくろうとしています。

5 県では、外国の人たちをささえたり、交流をしたりする「かながわ国際ファンクラブ」という取組を行っています。

また、ことなる文化の人たちといっしょに生活することについて考える場として「あーすフェスタかながわ」というイベントが開きされています。



日本語教室



かながわ国際ファンクラブ交流会



あーすフェスタかながわ



いろいろな国の人と仲良くなるために何ができるかな？



神奈川県立地球市民かながわプラザ (あーすばらざ)

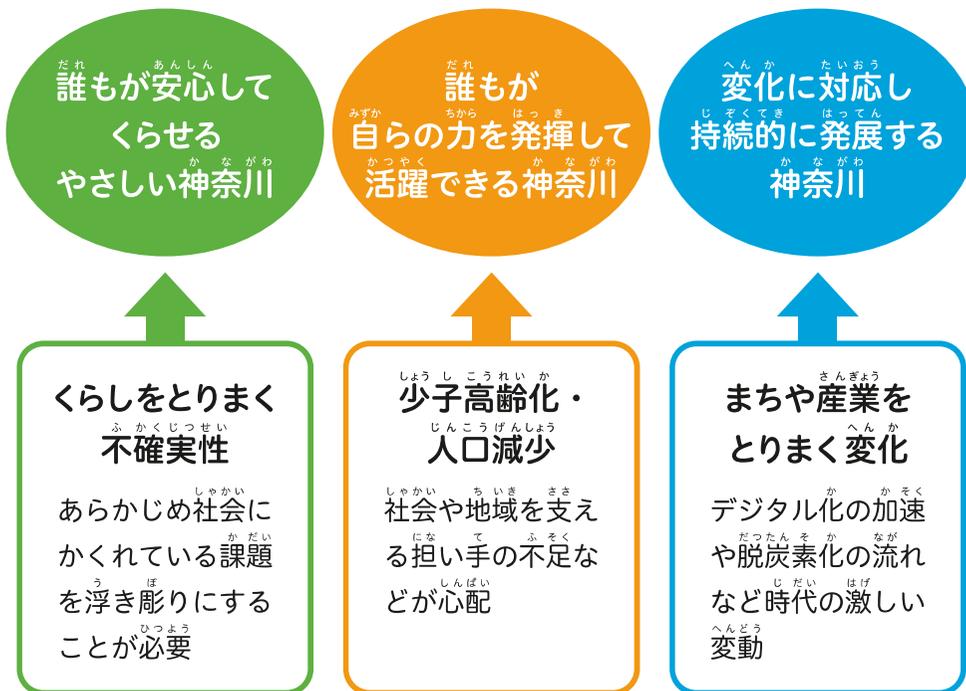


## 未来の神奈川ってどうなっている？

今、神奈川の人口は少しずつへりはじめ、超高れい社会や本格的な人口減少社会など予測していた社会が現実のものとなっ  
ていま  
す。2040年ごろには、神奈川の高れい者数はピークをむかえ、総人口は900万人を下回ることが予測されます。

また、世界中に大きなえいきょうをおよぼした新型コロナウイルス感染症の感染拡大、国際情勢の不安定化、地球温暖化のえいきょうによる異常気象など、わたしたちを取りまく社会はめまぐるしく変化しています。

## どんな神奈川をめざしていくの？



「新かながわランドデザイン」  
わかりやすい版

## どんなことに取り組んでいくの？

～神奈川県として特に力を入れて取り組んでいるもの～

社会全体で子どもや子育てをおうえんし、「子どもが幸せにくらせる社会」を作る活動をして  
います。市町村と協力して、保育園などの教育や保育のサービスをもっと良くしていきます。たとえば、県独自の試験を行って保育士をふやします。また、小学生が放課後に楽しくすごせる場所をもっと作ることに力を入れます。



子育てに希望の持てる社会づくり

脱炭素型ライフスタイル（脱炭素につながる暮らし）に変えていく流れを社会全体で進めていくため、  
未来をにう若者に脱炭素の授業をしたり、企業や団体、研究機関などと連携したイベントなどを行います。また、脱炭素につながる新しいぎじゅつや商品の研究開発などをサポートします。



太陽光発電  
(バルシステム神奈川・大和センター)

身近な生活を助ける「ロボット」を広め、ロボット産業を発展させていくため、県内の中小企業をしえんしたり、ロボットを実際に取り入れて実験する「さがみロボット産業特区」の取組を進めます。



ロボットを実際に取り入れた実験

だれもが文化や芸術の活動に参加できるようにするための取組を進めます。また、いろいろな場所で文化や芸術を楽しめるチャンスを作ることに取り組みます。



能楽ワークショップ

「ともに生きる社会かながわ憲章」の考え方をもっとみんなに知ってもらうために、憲章のPRに力を入れ、障がいに対する理解が進む取組を行います。また、メタバースなども使って、いろいろな人が交流し、障がいのある子どもや人について、よく理解できる場を作ることに取り組みます。



ともいきメタバース

規模が以前より大きくなり、起こる回数もふえてきている水害にそなえるため、川の整備を進めるとともに、川が流れる地域にかかわるあらゆる人たちがいっしょになって水害対策を行う「流域治水」を進めます。また、土砂災害から県民の命や財産を守るため、土砂災害防止せつをつくったり、大きな地しんが起きて、道路の橋が落ちないように補強します。



ひさちがわしちつちだなうすいし  
引地川下土棚遊水地